

## 気候変動の時代の幼児教育

## 潜勢力の関係性のフィールドとしての主観性と学び

2024年9月24日 (火) 17:00-19:00 (日本時間)

オンライン開催

同時通訳あり 参加費無料 事前申込制 (先着1,000名)

気候変動の時代の幼児教育に関するセミナーの第二弾です。日本、カナダ、スウェーデンの共同研究者が集って、ストックホルム大学から発信します。グニラ・ダールベリ氏とボディル・ハルバース氏より「潜勢力の関係性のフィールドとしての主観性と学び」と題して、ジル・ドゥルーズとフェリックス・ガタリのプロセス存在論と、フェリックス・ガタリの倫理的・美的なパラダイムが、子どものイメージ、学び、生、そしてすべてのものが変容し、他のすべてのものにつながっているというエコロジカルな考えについて、他に何を生み出すことができるかということの研究をお話いただきます。

## 開会挨拶・企画趣旨

浅井 幸子 (東京大学 教授/CEDEP 副センター長)

## 講演 潜勢力の関係性のフィールドとしての主観性と学び

グニラ・ダールベリ (ストックホルム大学 名誉教授)

ボディル・ハルバース (ストックホルム大学幼児教育プログラム・ディレクター)

ウェビナーの前半は、グニラ・ダールベリが、子どもたち、教師たち、親たち、そしてレッジョ・エミリアのコミュニティの全体は、新しい時代のプロジェクトを切り拓くことに成功したのかを問う。子どもを代弁することによってその尊厳を傷つけるのではなく、真剣に耳を傾けることによって、また、出来事、情動、そして潜勢力の関係性のフィールド全体を焦点化することによって、こうして存在の新しい宇宙を切り拓くことができるのだ。

ウェビナーの後半では、ボディル・ハルバースが、「木のプロジェクト」における子どもたちの探究プロセスと意味生成を追跡した研究を報告する。ドゥルーズに触発された潜勢力の関係性のフィールドとしての主観性と学びとしての学習の概念 (Dahlberg & Elfström, 2014) から、子どもたちの探究プロセスをマッピングすることによって、子どもたちの意味生成が可視化される。このマッピングは、子どもの質問がエコロジカルな問題や持続可能性に関わる複雑な問題に集中していることを示している。これに沿って、教育的な側面が探究される。

## 指定討論

小玉亮子 (お茶の水大学 教授)

ヴェロニカ・パシーニ=ケチャボー (ウェスタン大学 教授)



グニラ・ダールベリ Gunilla Dahlberg, PhD.  
ストックホルム大学児童青少年学部教育学名誉教授。  
1971年以来、幼児教育・保育分野の研究に従事。この30年間、ダールベリは同僚とともに、ポスト構造主義、プロセス・オントロジー、モア・ザン・ヒューマンの視点が、幼児教育・保育分野の変革にどのように貢献しうるかを探求してきた。スウェーデンの就学前教育制度における最初の国家カリキュラムを作成した専門家の一人でもある。レッジョ・チルドレン財団、ロリス・マラグッツィ・センターの科学委員会メンバー。



ボディル・ハルバース Bodil Halvars, PhD.  
小学校、就学前教育で教員として勤務した後、2002年にストックホルム大学教員教育カレッジのプロジェクト・アシスタント。2008年にストックホルム大学講師となり、同大学で2010年に博士号 (教育学) を取得。現在、ストックホルム大学児童青少年学部の幼児教育プログラム・ディレクター。目下、2つの幼児クラスにおいて、ツリープロジェクトを推進中。



Registration:

[www.cedep.p.u-tokyo.ac.jp/eventlisting/symposium/20240924seminar/](http://www.cedep.p.u-tokyo.ac.jp/eventlisting/symposium/20240924seminar/)